

うね！ 北海道で待ってるよ。

熊本県球磨郡多良木町と姉妹町を締結し、交流を始めてから10回目を迎えた児童交流学習事業。今年も3泊4日の日程で、南幌小学校の児童10名が多良木町を訪問し、両町の児童が交流を深めました。最終日には別れを惜しむ涙もありましたが、2月の再会を約束し全力で手を振りました。

【7月26日 1日目】

出発の朝、ぼろろで出発式が行われ、児童を代表して小沼心結さんが決意表明を述べました。たくさんの方々に見送られながら、緊張した面持ちで多良木町へ出発しました。

鹿児島空港に到着すると、「暑いー」と子どもたち。北海道とは違った強い日差しと湿度の高い空気に子どもたちは驚いた様子でした。多良木駅に到着すると、たくさんの方が拍手とともに温かく迎えてくれました。「多良木町交流会館石倉」では、歓迎レセプションが行われ、多良木町の吉瀬町長から歓迎のお言葉をいただいた後、両町の児童が挨拶を交わしました。

夕食会では、子どもたちも徐々に打ち解け、賑やかな食事となりました。暑い中用意してくださった、多良木町の美味しい料理の数々が忘れられません。夜は寝台特急「はやぶさ」を再利用した宿泊施設「ブルートレインたらぎ」に両町の児童が宿泊しました。初対面とは思えない盛り上がりでしたが、明日も早いので寝てもらいました…。

【7月27日 2日目】

この日は、皆が楽しみにしていた球磨川でのラフティングからスタート。川の水は冷たく、高い気温の中で気持ちの良いものでした。ボートに乗り込み、みんなで息を合わせてパドルを動かして川を下りました。水をかけ合ったり、バランスを崩して川に落ちたり、激しい流れでボートが大きく揺れるときには歓声があわき、球磨川の流れを存分に楽しみました。途中、岩場から川への飛び込みも行い、約6メートルもの高さから飛び込む児童もいました。

ラフティング後は、「一勝地温泉かわせみ」で体を温め、久米小学校へ。6年生に温かく迎えられ、講師の方の指導のもと竹細工に挑戦しました。のこぎりやナイフの使い方や学び、ペン立てや竹とんぼ、翌日の流しそいうめんで使用する箸やお椀を作りました。真剣な表情で取り組む姿が印象的でした。

竹細工を終え、民泊家庭の方々の迎えをうけて、それぞれの家庭へ移動しました。とても充実した一日となったようです。



また会お 次は北

友好の懸け橋 交流児童紹介①

特に楽しかったことは、6メートルの崖から川へ飛び降りたことです。落ちている時間が長く感じました。帰る時は寂しい気持ちでしたが、2月にみんなが来た時は、おいしいものを食べたり遊んだりしたいです。



宮本駿之介君（右）
上村真翔君

民泊で泊まった家庭でとても優しくしてくださり、澄空ちゃんと、その同級生とも仲良くなることができました。2月には、雪遊びを教えてくださいたいです。



齊藤咲雪さん（右）
上田澄空さん

民泊で夜にカブトムシを取りに行ったとき、木を叩いたら10匹以上も降ってきて驚きました。それと、流しそうめんを人生で初めて経験しました。4日間、とても貴重な経験ができました。受入の時は、直義君とスキーがしたいです。



竹山蓮君（右）
西直義君

一番心に残ったことは、太平燕（タイピーエン）を食べたことです。太平燕は、熊本生まれのあっさりとしたチキンスープで、いろいろな具が入っていました。私の大好きなものばかりでした！



瀬川珠生さん（右）
久保田愛花さん

鯛の刺身やカツ丼がとてもおいしかったです。鯛の刺身は、とても甘くさらにしょうゆも甘いのでとてもおいしかったです。2月に北海道に来てくれたときは美味しいご飯でおもてなしをしたいです。



久保慧弥君（右）
椎葉脩人君

①多良木町児童の皆さんが「くまモン看板」で温かく迎えてくれました②4日間よろしくお願ひします③持ち前のリーダーシップで下流へ導く！この後、豪快に転落したことは秘密です④何度も何度もジャンピング！素晴らしいチャレンジ精神です⑤⑥ブルートレインで夜更かし⑦⑧竹細工に挑戦！集中しています



⑨ブルートレインたらぎの前で記念撮影! ワクワクする宿泊施設でしたね⑩皆が見守る中、スイカの運命は…⑪自分たちで作ったお椀と箸でそうめんをキャッチ! ⑫復旧作業が進む熊本城。やっぱりお城はカッコイイ! ⑬夜中まで続くおしゃべり好き女子部屋の皆さん⑭最終日は「桜の小道」でピュッフェ!

【7月28日 3日目】
3日目は気温が35度を超え、この日までの多良木町にとって今年一番の暑さでした。夕方、えびす広場に集合した児童たちは、それぞれの民泊家庭での楽しい体験を、共有し合っていました。話も尽きぬまま、民泊家庭の方々と焼肉、流しそうめんが始まり、美味しくいただきました。日中の暑さからか、疲れがみられた児童もいましたが、美味しい物を食べた後は再び元気がいっぱい、鬼ごっこやすいか割りを楽しみました。

【7月29日 4日目】
最終日、多目的研修センターでお別れ会が開催されました。多良木町吉瀬町長のお別れの挨拶の後、南幌小学校の西田校長が謝辞を述べ、お別れの言葉を多良木町児童代表の多良木小学校佐藤琥珀君、南幌町児童代表の斉藤咲雪さんが述べました。多良木町の児童や民泊家庭のご家族との別れを惜しみ涙ぐむ児童もいましたが、2月の南幌での再会を約束してバスに乗り込み、大勢の方々に見送られ多良木町を出発しました。

友好の懸け橋 交流児童紹介②

思い出に残ったことは、民泊家庭に泊まったことです。どのお部屋にもエアコンがあってびっくりしました。また、色々な所に連れて行ってもらい、良い思い出になりました。



向井世奈さん(右)
那須唯奈さん

民泊家庭の方は、すごく優しくて快く迎えてくれました。九州にしかない物をお土産でくれたり、観光名所などに連れて行ってくれました。次に多良木の子が来てくれたときには、北海道でしかできない経験をさせてあげたいです。



新田琉平君(右)
松岡寛斉君

民泊で、初めて「かぼす」を食べました。その他に花手箱に絵付けをしたり、プリクラを撮ったり、夜には花火もしました。2月には、北海道の冬を楽しんでもらいたいです。



小沼心結さん(右)
佐藤舞さん

ラフティングと球泉洞という洞窟で探検をしたことが楽しかったです。民泊では、多良木町で採れるぶどうを食べたり、とても良い時間を過ごしました。2月の受入の時には、たくさん楽しい思い出を作ってもらいたいです。



中川和磨君(右)
佐藤珀君

私がこの交流で心に残っていることは、名前の呼び方です。ペアの子も「かりん」なので、どっちが呼ばれたのかわからず一緒に振り向いて笑ってました。2月も笑顔で4日間を過ごしたいです。



今野華凜さん(右)
坂本夏梨さん



その後、震災後から復旧作業が続く熊本城を訪れました。今もなお残るがれきの様子を見ると、子どもたちも被害の大きさを実感しているようでした。ただ、透明なシートの向こうに見える、かつての姿を取り戻しつつある城の姿は、着実に復興へと進むまちの勢いを象徴しているかのようでした。皆が復興への応援の想いを胸にその場を後にし、熊本空港で4日間お世話になった多良木町職員の方々にお礼をし、飛行機に乗り込みました。

長い移動を終え、夜8時頃にぼろろに到着した子どもたちは、出迎えてくださった保護者の方々へ多良木町での出来事、そして感謝の気持ちを伝えました。民泊家庭での体験について話す児童が多く、人の温かさを感ずる貴重な時間になったのではないのでしょうか。

次の再会は2月。冬の南幌町でも楽しい思い出をたくさんつくれるよう、そして両町の絆がより深まるように、皆さんと一緒に温かく迎えたいと思いますので、ご協力をお願いします。

